

米国における性の自己責任教育プログラム(PREP)に関する一考察

－我が国の教育課程に位置づく性に関する指導との比較等を通して－

町田 悠希 (宇都宮大学)

1. 目的

我が国の青少年における性に関する課題は多様化・複雑化しており、学校における性教育の一層の充実が求められている。本研究では、米国の Personal Responsibility Education Program (PREP)の理念や枠組みの文献的な検討を行い、我が国の性教育への適応性や課題等を把握することを目的とした。

2. 研究方法

PREP の資料として、米国保健社会福祉省 (U.S. Department of Health & Human Services) 等から刊行されている以下のガイドラインの翻訳を行い、教育内容、教科、配当時間、教材・指導法、指導者の観点から概要を整理した。その際、帖佐 (2017) の先行研究も参考にした。

① Personal Responsibility Education Program (PREP) Evaluation, April 2014.

② Launching a Nationwide Adolescent Pregnancy Prevention Effort, October 2013.

また、我が国への適応性やその課題の把握について、小学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 体育編、中学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 保健体育編、高等学校学習指導要領 (平成 30 年告示) 解説 保健体育編・体育編に記載されている性に関する指導内容等を念頭に置きながらまとめた。

3. 結果と考察

1) PREP の位置づけと基本方針

PREP は、米国議会が患者保護並びに医療費負担適正化法 (Affordable Care Act) の一環として、2010 年に承認した包括的性教育プログラムであり、米国保健社会福祉省 (U.S. Department of Health & Human Services) の家族青少年サービス局 (Family and Youth Services Bureau) によって管理されている。PREP の基本方針としては、「エビデンスを重視したプログラムの基本構成とする」、「ハイリスク集団 (性行動が活発、触法少年、性的マイノリティ等) にも焦点を当てる」、「禁欲と避妊を含む」、「成人期への移行に関する題材を使用する」が示されている。

2) 教育内容

PREP の教育内容は 2 つに大別される。①成人期

への移行に関する内容と、②禁欲と避妊の両方を含む内容である。成人期への移行に関する題材の中には 6 つテーマ (健康的な人間関係、青年期の発達、金融リテラシー、親子間のコミュニケーション、教育及びキャリア上の成功、健康的なライフスキル) があり、この中から 3 つのテーマを選択しなければならない。金融リテラシーやキャリア形成に関するテーマは若年層の妊娠出産に関わる社会・経済的な視点からのアプローチとして特徴的と言える。さらに、ジェンダーやセクシャリティに関する学習も、より充実した性教育の実施の面で重要な内容であると考えられる。

3) 教科、配当時間

PREP はミドルスクールとハイスクールの 4 年間で約 38 時間実施される。我が国の教育課程に位置づく性教育に比して多くの時間が配当されている。

4) 教材・指導法

PREP の教材・指導法には DVD やゲーム、インターネット上での対話型知識クイズ、ブレインストーミング、ロールプレイング、スキルの育成活動、小グループでのディスカッション等がある。また、保護者やピア・エドューケーター、その他の青少年育成に係る大人を巻き込んだアクティブ・ラーニングを導入した内容もあり、多様な教材・指導方法の工夫がなされている。

5) 指導者

PREP では、プログラムを忠実に実施するために進行役は訓練された PREP スタッフが行う。専門性の高い者が性教育を行うことでより効果的な性教育を行うことができると考えられる。

4. 結論

PREP は、性に関する多様な視点を組み込んだ包括的性教育プログラムであった。今後の我が国の性教育においては、カリキュラムマネジメントの視点を踏まえた学校教育全体での取組や学校外の専門家等との連携による性教育の充実が求められることから、PREP における性に対する多面的なアプローチの枠組、教材・指導方法の工夫等について、我が国の性教育に適応させることは有意義と考えられた。